

少年兵「護郷隊」の 沖縄戦(2)

遊撃戦の要塞と化す恩納岳

一九四五年に入り、沖縄戦を目前にして恩納岳の要塞化が急速にすすみます。

一月十九日、第二護郷隊岩波寿隊長は「部隊ハ先ヅ速ニ恩納岳北方谷地ニ遊撃基地ヲ設定シ不時ノ戦斗ニ応ジ得ル態勢ヲ確立シ後恩納岳ヲ中心トシテ遊撃拠点ヲ設定ス」とし、恩納岳を遊撃戦で米軍を迎える拠点として命令を下します。そして「戦斗各期ヲ通ジ遊撃基地タルモノニシテ部隊主力ノ長期棲息ヲ可能ナラシムベキモノ」「上空ハ勿論地上視察ヨリ敵ニ離隔シタル位置ニ棲息設備並に兵器弾薬糧秣ノ集積ノ為ノ設備ヲ構築ス」(1)とし、山深い自然豊かな恩納岳を存分に活用し、米軍の進攻を食い止めるために、長期化しても耐えられる拠点の設置を命じます。現在「第二護郷隊の碑」がある安富祖クガチャ原周辺に兵器、弾薬、食糧などの物資の倉庫が設営

され、そこから現在の安富祖ダムの奥へと物資の移動をすすめました。一方で「来年度ノ待命予定者ノ準備並ニ教育ヲ準備ス」、「中頭郡方面ニ於ケル秘密遊撃戦ノ根幹トナルベキ召集及ビ教育ヲ準備ス」とし、兵員確保と速成教育を図ります。

「軍人勅諭長いでしょ、その中の一節、軍人は忠節をつくすを本分とすべしという何ヶ条かありますよね、その部分だけを覚えさせて、あとは省いていました」(国頭村：十八歳)

『這つていく訓練、伏せながら匍匐(ほふく)前進で斬りこみに行く訓練ですが、ひじにタコができないと痛いでしょ。痛くて匍匐前進できない人は後ろから木銃で「なんでできないか」ってどつかれるんですね。「タコができないと使えない」と将校達はいってましたが、一ヶ月くらいではタコはできないわけです。』(大宜味村：十六歳)

安富祖国民学校での訓練は約三週間と、その時間はあまりにも短いものでした。土地勘のない場所で、訓練不足の中、間もなく沖縄戦に突入していきます。

沖縄戦開始

三月二十三日、米機動部隊の艦載機が沖縄への空襲を始め、沖縄戦が始まりました。「軍八甲号戦備ヲ令セラル」(部隊ハ最モ速ニ基地ヘ転移ヲ準備セントス)(2)(四遊作命第三四号・第四遊撃隊命令 三月二十五日)が発せられ、それぞれの配置につきます。第四遊撃隊は四つの中隊にわけられましたが、作戦に

よって、偵察隊や通信隊などの任務をもった混合部隊が編成されていきます。

その中で遊撃戦の緒戦として行われたのが、米軍の北部進攻を妨害するための作戦で、訓練中の爆薬製造や、発火、設置など具体的に行われていたことの実戦でした。「石川橋は当時石橋で橋げたの下にもぐって爆弾を吊るすんです」(美里村：十七歳)「瀬良垣の橋も夜のうちには爆破しましたが、完全に壊れず真ん



赤橋(手前の壊されている橋) 撮影日:2015年4月14日



石川橋(撮影日:1945年7月4日)沖縄県公文書館所蔵資料



中で折れたようでした」(国頭村：十八歳)「石川から、伊芸、金武にかけての松並木を爆弾で倒しました」(東村：十六歳)と実行していきましたが、米軍は道路や橋を難なく補修し通行できるようにしていきます。一方、北部への避難民はその橋を渡ることができず、引いてきた馬車や、荷物を置いていかざるを得ない状況に追い込まれました。

(次回へつづく) (瀬戸)

- (1) 指揮下部隊作命綴 国頭支隊
「四遊作命第十一号 第四遊撃隊命令
一月十九日
- (2) 指揮下部隊作命綴 国頭支隊
「四遊作命第三四号 第四遊撃隊命令
三月二十五日

参考文献

- 『語り継ぐ戦争 第3集 やんぼるの少年兵「護郷隊」〜陸軍中野学校と沖縄戦』
(名護市教育委員会文化課
市史編さん係 二〇一二年三月)
- 『沖縄戦が問うもの』
(林博史 二〇一〇年六月)

『戦史叢書 沖縄方面陸軍作戦』
(防衛庁防衛研修所 戦史部 一九六八年一月)

★文中で引用した証言は恩納村誌編さん室で体験者の方から聞き取りした証言を反訳したものです。